

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月19日実施)	総合評価 (3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	○極めて高いレベルの文武両道の実現 ・「見える学力」を育む ・「見えない学力」を育む 2つの学力を涵養し、「国際社会のリーダー」に必要な資質を培う教育課程を編成し、全職員の共通認識の下、生徒を育成する。	①「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践の共有を教科の枠を超えて推進する。 ②特別活動や生徒会活動における運営能力、多様な関係の中での対話力、包括的に受容し新たな道を切り開くリーダーシップを育成する。	①生徒の理解を深め、より高度な思考を育成するための教材研究、ICTツールの効果的な使用方法について、授業研究会や校内ICTツール研修会等を通して共有し、協議する。 ②生徒が学校行事や部活動等に安心して全力を注ぐことができる環境を整備し、生徒や職員間での情報共有を密にして支援する。	① ●授業研究会を年1回実施し、5教科以上の教科で実施することができたか。 ●ICTツール研修会を年3回以上実施することができたか。 ●生徒による授業アンケート項目3について「4」の評価を全教科で概ね40%以上を達成することができたか。 ②生徒及び職員を対象としたアンケートや情報共有を行う中で、各行事や部活動について生徒及び職員が抱える課題を解決する手立てを考え、支援することができたか。	① ●10月に6教科の先生により研究授業を実施した。その後の授業研究会では、昨年度から継続して、分科会形式で実施して十分な意見交換ができた。 ●各定期試験期間の午後に、計3回の実施ができた。主に電子黒板とロイロノートの使用方法について、各教科の実践報告が情報共有できた。 ●第1回の授業アンケートでは、全科目で概ね35%程度の結果を得た。17科目において目標を達成できている。 ②生徒、職員間で情報共有を密にできたことで、昨年より滞りなく運営することができた。文化祭ではキャッシュレス決済を導入し、会計処理をスムーズに行うことができた。体育祭では準備の際に天候不良に見舞われたが、準備計画を見直し、安全に実施することができた。	① ●今年度は教科ごとの意見交換で実施をしたので、次年度は教科横断した意見交換の場を設けられるように努める。 ●実践事例の蓄積がかなり多くなってきたので、集約し、学校としての実践事例集を作成して、研修に参加できない先生への周知もできるように努める。 ●第2回授業アンケートに向けて、各教科で継続して授業研究に努めていただき、現在抱える課題を明らかにして全科目での達成をめざす。 ②生徒及び職員のアンケート結果から現状を正確に把握し、次年度以降の生徒活動がより良いものになるよう、改善を図ってきたい。	授業研究については、毎年度切り口を変えながら積極的に取り組んでいる。授業研究会や実践報告が実施され、学校の教科指導の一体感が高まってきていると思う。 特別活動や学校行事について、生徒、職員間で情報共有ができていくことは非常に大切であり、結果として行事が発展している。また、教育課程に編み込まれ生徒の主体性や困難に挑戦する力を醸成している。こういう活動は海外には例がなく、いつの日か生徒が学校紹介動画を英語版で作成して世界に発信する日が来ることを楽しみにしている。	① ●授業研究会では、昨年度より新しい形の研究協議を継続し、6教科での研究授業を行うことができた。校内で組織的に授業改善を行う環境ができはじめていく。次年度も継続して行く。経験年数の多い教員の研究授業を実施できるよう、声がけを行っていく。 ●ICT研修の蓄積が継続してできているので、生徒アンケートにおける数値的成果も学校の課題として重く受け止め、生徒の資質能力を考えた授業展開を組織的に進めるよう努める。 ●第2回授業アンケートにおいても、10教科中2教科が目標を達成し、その他の教科も35%以上を超える教科が3教科と着実に成果を伸ばしている。今後も継続して目標を設定し、授業改善に努める。 ②生徒、職員間での情報共有を密にし、連携を深めることで、学校行事を生徒主体で円滑に進めることができた。	① ●組織的な授業改善を行う環境が整い始めているので、継続して環境整備、実践できるような努める。 ●生徒アンケートの項目3について「4」の評価を全教科で40%以上得られるよう、今年度目標を達成した教科を中心に、生徒の資質能力を考えた授業改善を授業力向上ワーキンググループと継続して連携し、全教科での目標達成を目指す。 ②生徒及び職員のアンケート結果の活用が不十分であるため、今後の活動を改善していくためにも、アンケートの実施・活用方法について検討していきたい。
2 生徒指導・支援	①リーダーにふさわしい素養を養う。心豊かで他者を尊重できる人間性と自律的・主体的な態度を育てる。 ②学校生活の安全・安心を第一優先とし、生徒が抱える多様な課題に迅速かつ計画的、組織的に対応する。	①生徒が、人としてどう行動すべきかを自ら考え実践していけるよう、全職員で指導・支援していく。 ②学校生活の全体的な問題と、個別の生徒の課題を把握、共有し、課題の解決に向けて対応する。	①何事にも主体的に取り組む、支え合いながら切磋琢磨し、最後までやり抜くことを通して人間的な成長をめざす。また、校外での行動にも意識を向けるよう指導する。 ②生徒を取り巻く環境について理解を深め、適切に情報共有しながら、全職員が様々な立場から生徒を支援する。	①リーダーに必要な自律的で他者を思いやれる態度やマナーを身に付けさせることができたか。また、校外からのような指摘を受けたか。 ②生徒の問題把握と課題解決に向けて、報告・連絡・相談が円滑に行われ、迅速で効果的な対応ができたか。	①日常的な活動、各学校行事を通して、自分の在り方から他者への関わりなどが自然につながっていく様子が見られた。 ②多様な悩みや生きづらさを持つ生徒に対して、その状況を共有し支援していく方向を、複数の職員で検討し実践した。	①全体として、自己を向上させようとする意識は高いが、登下校時などで公共マナーに欠ける行為も見られた。校外でも自分と周囲の人々について、考えて行動させたい。 ②問題把握については、かなりの成果を上げているが、SNSの利用方法など、教員が直接つかめないところの問題には苦慮している。	生徒にとって、リーダーシップの意義を十分に考えさせることは大切だと考える。自分だけが良ければ良いという意識ではなく、高校生全体のことや、社会づくりのための自己の在り方を考えることが必要だと思う。 他者との直接的なかわりやコミュニケーションが難しい時代だが、引き続き、日々の生活や学校行事等を通じて、自分も他者も大切にすることを育成してほしいと思う。	①主体的な取り組みについては、概ね達成できている。但し、他者とのかわりが伴う場面では、相手の気持ちや立場に思いが至らず、自分勝手になってしまうような場面もある。 ②生徒の多様な悩みや生きにくさへのアプローチと情報の共有については、かなり広がりができた。対応については、さらに多岐にわたるので、校外との連携も模索する必要がある。	①学校生活の様々な場面を通して、リーダーとフォロワーのような、それぞれの役割によって感じ方や動き方も違うといった、人権意識を高めていくことが求められる。 ②生徒の持っている問題点等を共有するツールが浸透してきており、それを活用した情報共有と対応方法を記録し、活用することで、対応範囲や対応速度が上がっていくことが期待できる。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月19日実施)	総合評価(3月23日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①生徒が自ら掲げた高い目標を最後まで諦めさせないことを目指し、計画的かつ柔軟な進路支援を実施する。</p> <p>②生徒一人ひとりが学習や進路の目標を実現できるように、全職員がそれぞれの立場で生徒を支援する体制を構築する。</p>	<p>①生徒アンケートや成績データなどの資料を面談に生かすとともに、進路講演会等を効果的に実施する。</p> <p>②学級運営や授業、普段の声掛け等に生かせるよう、進路支援に関する情報を全職員に向けて発信していく。最近の入試状況や、大学や社会に関する情報を収集し、教員間での共有を図る。</p>	<p>①生徒が、自身にとって価値ある進路を実現できるように、生徒の状況を適切に把握し、進路説明会、進路通信等を活用して情報提供や励ましを行う。</p> <p>②進路支援グループが環境を整備し、学校と家庭が一体となって生徒の進路実現を支える。</p>	<p>①●進路に関する情報を、模試や定期試験等の適切なタイミングで生徒に提供できたか。 ●面談用に作成した資料を全職員に提供し、各職員が面談やその他の場面で効果的に活用できたか。</p> <p>②大学入試結果と模試や定期試験のデータを合わせて分析し、進路研修会で全職員向けに研修を行ったか。</p>	<p>①生徒の状況と講師を吟味し、各学年進路講演会を行った。また、進路通信を各学年で発行し、生徒に進路情報などを配信している。生徒の感想を見る限り進路意識は高まっていると思われる。</p> <p>②前年度の入試結果を分析し、職員全体で研修会を行い、実力テストの結果を回覧するなど情報を共有した。また、進路研究会や学力向上進学重点の情報も各グループや学年に共有した。”</p>	<p>①生徒の進路意識は相対的に高まったが、まだまだ自分の進路に主体的に取り組める生徒が多くはない。引き続き、進路講演会、声かけなどで進路意識を高めていく。</p> <p>②実力テストの分析を生徒・教員ともに充実させるべきであると感ずる。教科指導等にも役立てたい。”</p>	<p>学校側からは講演会や情報等の提供は十分にされているだろうと思う。自分のために主体的に動けるのは、自分のことをわかっている、あるいは、わかりたいという欲求があるからだと思う。学校生活で興味の種に多く触れると共に、忙しい生徒たちに内省する時間・機会も校内で提供されていると良いのではと思う。</p> <p>他県の学力向上重点校等との情報交換を進めて、職員の進路指導についての研修に役立っている方法もあると考える。</p>	<p>①夏季特別講座の東大訪問が前年より大幅に参加が増えたように、生徒の高い目標意識はさらに向上しているように感じる一方で、進路に迷う生徒もいるので具体的な目標を持たせたい。</p> <p>②校内の研修だけではなく、他校の動向なども含めて、本校の進路指導をさらに充実させたい。</p>	<p>①進路講演など、進路行事をさらに充実させる。校内だけではなく、外部の連携も併せて行いたい。</p> <p>②校内の経年比較、教科へのつながりも重視しながら、進学重点校や首都圏公立進学校の取り組みなども充実させていきたい。</p>
4	地域等との協働	<p>○地域等との協働を推進し、地域に開かれ、信頼される学校づくりをめざす。</p>	<p>○地域、中学生からの理解や関心が深まるように、教育活動の紹介等の情報発信を行う。</p>	<p>①部活動単位での地域行事への参加や中学生との交流を推進する。</p> <p>②小中学生対象の説明会を実施し、ホームページにおける生徒の活動紹介を充実させる。</p>	<p>①部活動を通して地域行事への参加や中学生との交流ができたか。</p> <p>②●申し込み方法など、参加しやすい形態で説明会が実施できたか。 ●ホームページの内容を充実させることができたか。</p>	<p>①部活動単位で、地域行事への参加を実施している。</p> <p>②小中学生を対象として説明会を実施した。各説明会では、申込期間を変更することにより、昨年同時期の説明会より多くの参加者があった。学校行事、部活動の大会結果など、ホームページで紹介できている。</p>	<p>①中学生との交流をより促進したい。</p> <p>②説明会等で募集定員を超えてしまったため、参加できない方への対応について検討が必要である。</p>	<p>地域に開かれた学校づくりを推進していることが、小学生フェスティバルなどの資料からも伺うことができる。</p> <p>各行事での来場者数の多さからも、非常に注目されている学校であると感じる。優先する学年、先着・抽選等、募集方法に工夫があっても良いかと思う。</p>	<p>①部活動単位で、地域や中学生との交流を行うことはできたが、試合など活動予定との兼ね合いがあり、一部の部活動に限られている。</p> <p>②学校説明会、ホームページを通して本校の活動の様子を紹介することができた。</p>	<p>①部活動を通しての交流を引き続き推進したい。</p> <p>②説明会の内容や参加希望者の受け入れ方法について検討していきたい。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①地域から信頼される学校づくりを推進し、事故・不祥事の防止を徹底するとともに、日常的、継続的な環境整備、防災対策に取り組む。</p> <p>②教職員の働き方改革推進のために、職場の環境的・制度的改革を図り、教育活動の更なる充実に資する。</p>	<p>①地域から信頼される学校づくりを推進するため、日常的に職員間の合意形成に取り組む。</p> <p>②教職員の働き方改革推進のために、引き続き、衛生委員会などを活用し、職場の環境的・制度的改革に取り組む。</p>	<p>①環境整備や防災訓練などを通じて、社会の未来が幸福なものとなるよう生徒の意識を育てる。</p> <p>②職場環境の改善、長時間勤務の是正、業務の均等化等を推進する。</p>	<p>①環境整備や防災に関する生徒の意識が高めることができたか。</p> <p>②職員が、過ごしやすい職場の在り方の追求に取り組めたか。</p>	<p>①集団下校班訓練、夏季休業前の自然災害への意識喚起講話、避難訓練、DI G訓練・簡易トイレ設置訓練などで防災に関する生徒の意識を高めることができた。</p> <p>②職場環境アンケートを実施し、職員が労働環境改善に取り組んだ。</p>	<p>①生徒環境整備委員や担当職員以外の環境整備、防災に関する意識は十分とは言えない。校内に散乱する部活動関係の物品処理の対策が必要。</p> <p>②職場環境アンケートの改善要望は、職員意識の共有や協力、予算的裏付けが必要で、解決改善までに時間のかかりそうなものもあるが、できることから取り組んでいきたい。今後予定されるオフィス改善に向けた準備が必要である。</p>	<p>生徒環境整備委員と担当の先生方が協力して危機管理の意識向上を図っていただきたい。</p> <p>以前から先生方の長時間労働が問題提起されておりますが、ワークライフバランスの充実を目指し、引き続き労働環境の改善に取り組んでいきたい。</p>	<p>①生徒環境整備委員の環境整備、防災に関する活動が、主体的で充実したものとなった。校内に散乱する部活動関係や所属不明な物品の対策は課題である。</p> <p>②職場環境アンケートを実施し、職員が職員室内の労働環境改善に取り組んだ。今後予定されるオフィス改善に向けた準備が必要である。</p>	<p>①環境整備委員会の拡充や生徒の部連合委員会との連携などを検討する。</p> <p>②今後予定されるオフィス改善に取り組む組織の整備と職員意識の共有や協力に貢献する。十分な収納スペースや過去のアンケートで要望のあったリフレッシュスペース確保などが期待される。</p>